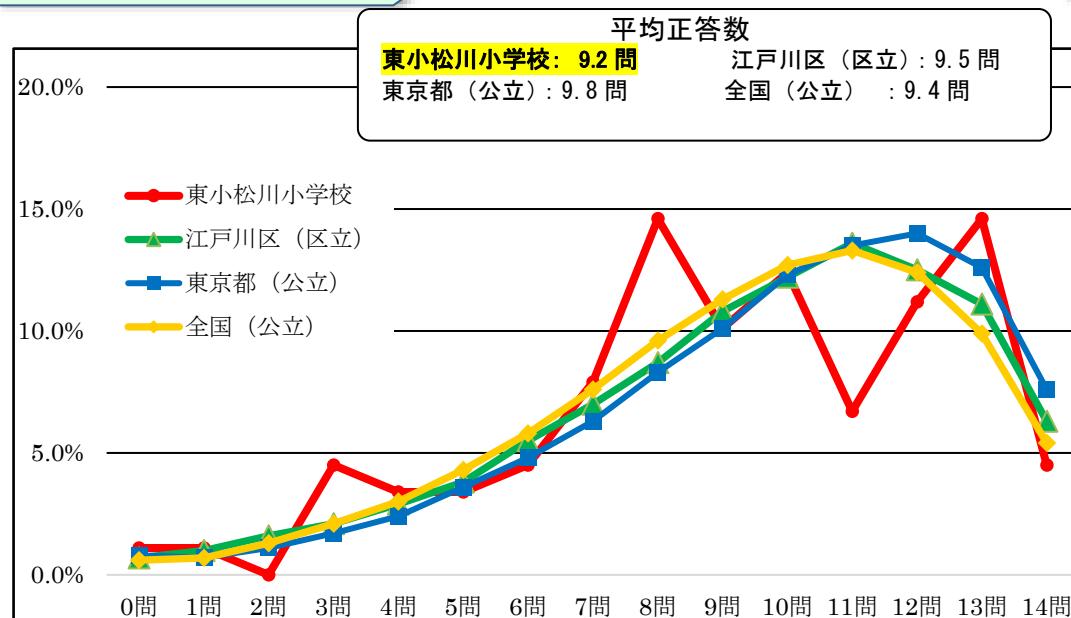


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】東小松川小学校

正 答 数 分 布



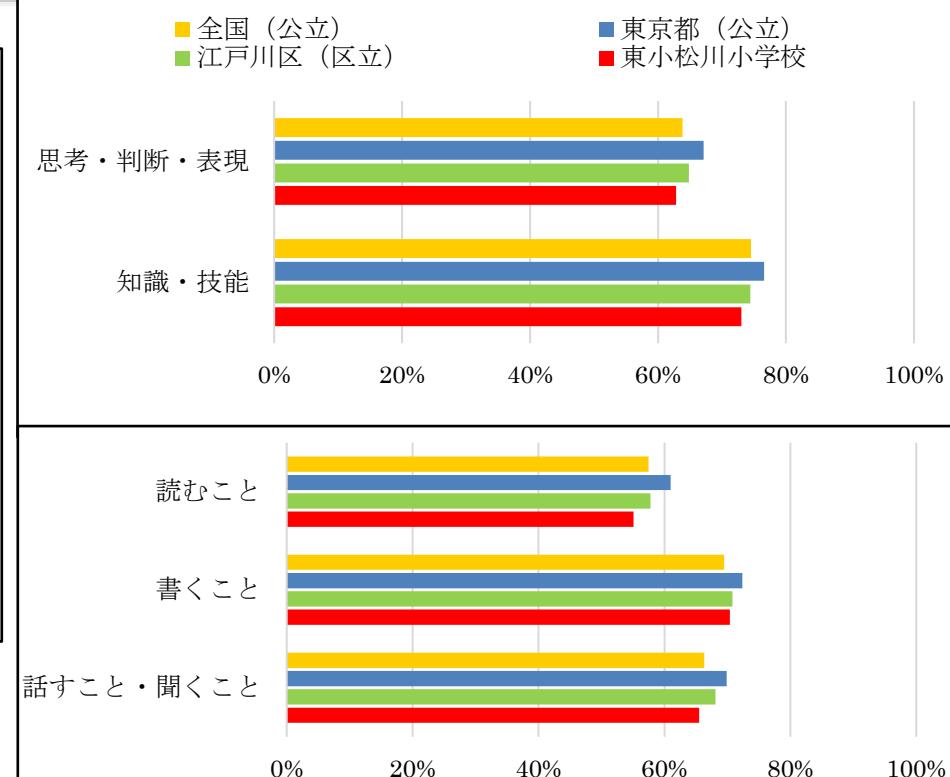
＜四分位における割合(都全体の四分位による)＞

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
東小松川小学校	30.3	19.1	24.7	25.9
江戸川区 (区立)	30.0	25.8	19.5	24.7
東京都 (公立)	34.4	25.8	18.4	21.4
全国 (公立)	27.7	26.0	20.9	25.4

%
四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

東小松川小学校	66%
江戸川区 (区立)	68%
東京都 (公立)	70%
全国 (公立)	66.8%
都との差	-4 ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

本校の平均正答率は、全国と同じであり、都の平均よりは、4%低い結果となった。平均正答数を見ると、A層が都よりも少なく、D層は、都より多い状況となっている。領域別で見ると、「知識・技能」の結果が都より低くなっている、基礎的な部分に差が出ていると分析できる。

改善策として、言葉調べや漢字学習で語彙を増やし、よむYOMU ワークシートや読解力プリントを活用して読む力を向上させていく。また、対話活動を増やすことで、話し手の考え方と比較しながら自分の考えをまとめる力を養っていき、学び合いを通して基礎的な力を伸ばしていく。